

日本におけるミヤマガラスの渡来地拡大の経緯

高木憲太郎（NPO 法人バードリサーチ）

ミヤマガラスは9月ごろになると大陸から渡ってくる冬鳥である。九州地方とその周辺のみには渡来していたが、1980年代から分布が広がった。中国、四国地方でも大きな群れが観察され始め、北陸地方から東北地方、北海道へと広がり、1990年代後半には東海地方や関東地方でも観察されるようになった。ミヤマガラスの渡来地の拡大については、その分布域の前線にあたる地域で関心が高まり、目撃記録が地域ごとに調べられているが、日本全体の経緯についてまとめた報告はまだない。

そこで、2004年の11月から野鳥関係のメーリングリストや雑誌などにアンケートを掲載し、ホームページ等を通じてミヤマガラスの情報を広く集めるとともに、既存の文献等の記録を収集し、日本におけるミヤマガラスの渡来地拡大の経緯を調査した。アンケートからは、2004年11月から2005年7月の9ヶ月で54名の方の協力を得て、91地点の情報を集めることができた。文献からは、各府県や野鳥の会の支部が作成した鳥類目録を中心に、観察年月と観察場所が記載されている情報のみを集めた。

佐賀県では、「1950年代まではミヤマガラスの大群が渡来した。」との記録が残っており、島根県でも1955年の観察記録が残っている。しかし、佐賀平野では1960年代以降ほとんど見られなくなったとされている。20世紀前半にはまとまった数のミヤマガラスが西日本に渡来していたが、1960年代前後に何らかの理由で渡来地が縮小したという経緯があるのかもしれない。

佐賀県では1974年から数百羽の群れが観察されるようになったという記録があった。山口県、福岡県、鹿児島県について、今回の調査から得られた最初の記録は1975年のものだった。このことから、70年代後半に九州地方と山口県に渡来地が広がった可能性が示唆された。島根県でミヤマガラスの観察記録が多数出現するようになったのは1984年であり、四国地方の初記録とされているのも1984年の愛媛県の記録であった。日本海側では、福井県で1986年に初記録があり、富山県や新潟県でも1980年代末には大きな群が観察された。四国地方は愛媛県に次いで香川県と徳島県で1987年に初記録があり、高知県でも1988年には記録があった。近畿地方では、北部で1990年代前半頃から観察されはじめ、同時期に東北地方でも観察され始めた。北海道の最初の記録は1988年だが各地で観察されるようになったのは1994年ごろからであった。宮城県では、1995年ごろから観察記録の頻度が高くなっていった。北陸地方が1980年代後半だったのに比べて、東海地方は遅く、岐阜県の初記録は1996年であった。今回の調査で得られた静岡県最初の記録も1997年だった。関東地方では、茨城県で1998年に初記録があったが、栃木県や埼玉県の実確な最初の記録は2000年であり、神奈川県は2001年であった。

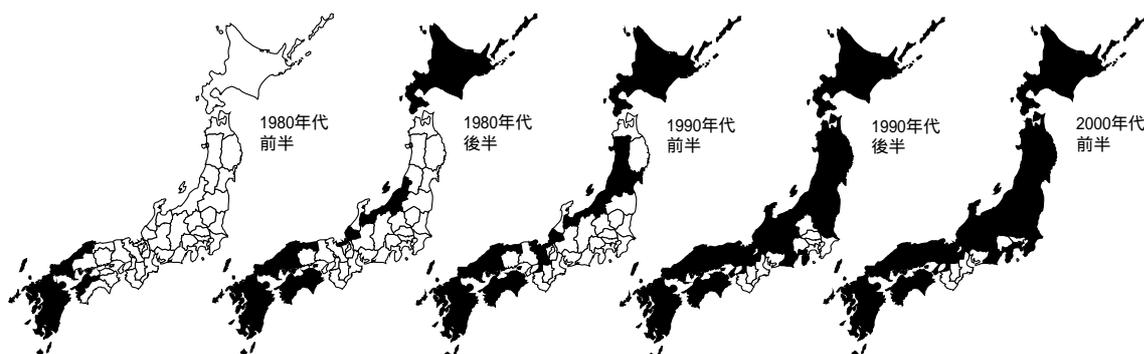


図. ミヤマガラスの観察記録が得られた都道府県(年代別). 空白はミヤマガラスがいなかったことを示すわけではない.